

第1学年国語科指導案

日時	平成21年11月25日(水)
場所	1年A組教室
学級	1年A組(男子16名 女子11名 計27名)
授業者	教諭 山内 薫

- 1 単元名 真実を語る
教材名 「未来をひらく微生物」 大島泰郎(光村図書1年)

2 単元について

(1) 生徒の実態

本学級の生徒は、概ね明るく元気であるが、学習能力はあまり高いとは言えない。又、言動に幼さが見られる生徒もおり、学習面でも個別指導を必要とする。

今年度の標準学力検査の結果を領域別に見ると、「話す・聞く」は72.2(市は75.8)「書く」は75.6(市は83.1)、「読む」は72.0(市は74.4)、「言語事項」は63.9(市は74.3)である。さらに、「説明文の内容の読みとり」は74.8(市は77.2)で、いずれの項目においても下回っている。

意欲を含め、基礎的な力が身に付いていない生徒も多く、知識の確実な習得を行わなければならない。又、生徒個々の力にもかなりの差があるため、個別指導が必要だと思われる。

国語が好きな生徒はあまり多くないが、学習が必要だとは思っているため、その気持ちを生かしながら指導していきたい。

(2) 教材観

1学期には、「ちょっと立ち止まって」「クジラたちの声」の二つの説明的文章を学習した。キーワードや指示語、接続語等に注目しながら読むことの指導を行った。

本教材は、普段その存在を気にすることのない「微生物」について、その働きと、それがもたらす環境改善への大きな可能性を述べ、生命への新しい視点をひらかせる内容となっている。9世紀半ば以降の急速な科学技術の発達で、地球と人類に大きな危機をもたらしたと言われる。しかし、一方では、その状況を改善するための方法も科学技術は提示しつつある。「未来をひらく微生物」は、環境を汚染しない製品の開発や、汚染された環境を元にもどす方法における微生物の活躍をわかりやすく説いている。さらに、抽象的になりがちな内容に具体例を対比的に取りあげるなど、工夫された表現になっている。

(3) 指導観

本教材は、これまでに学習した説明的文章と比べて、質・量共にレベルアップしたものになっている。キーワードや指示語、接続語等に注意しながら文章構成を掴ませたい。又、例示の仕方等、事実を正確に分かりやすく伝えようとする工夫を読み取らせたい。又、努力を要する生徒も、興味を持って取り組めるように、学習の方法を工夫したい。

3 単元の目標

単元の指導目標	単元の評価規準
<ul style="list-style-type: none"> ・事実と意見の違いを読みとり，文章の構成や展開に気をつけて，内容を理解することができる。 ・微生物と環境に対する筆者のものの見方や考え方を理解することができる。 ・段落の役割に着目し，文章の構成や展開を正しくとらえることができる。 ・科学用語や漢語等，多様な語句について理解することができる。 	関心・意欲・態度(意欲態度)
	<ul style="list-style-type: none"> ・微生物と環境に対する筆者の見方や考え方にふれ，意欲的に感想を書こうとしている。
	読むこと(知識・理解の習得・活用)
	<ul style="list-style-type: none"> ・接続語や指示語を抜き出し，その役割を指摘する。・読み手に配慮した文章の工夫(例示の仕方など)を指摘する。・段落の役割に着目し，導入・本文・まとめ等の働きについて読み分けている。
	言語事項(知識・技能の習得)
	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の重要な語句の意味を調べ，具体例を付け足して説明している。

4 指導計画

時	学習内容	本時の目標	評価規準	言語活動
1	「未来をひらく微生物」を読んで，一読後の感想を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を通読し，内容に関心を持ち，感想をまとめることができる。 ・新出漢字や注意する語句の意味を確認できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「未来をひらく微生物」を読み，初発の感想を持つとしている。 【学習に取り組む意欲・態度】(関心・意欲・態度) ・新出漢字の読みや，語句の意味について理解しようとする。【知識・技能の習得】(言語事項) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「未来をひらく微生物」を読み，初発の感想を持つ。 【記録】
2 本時	文章全体の構成を掴み，四つに分ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・文章全体の構成を掴み，四つに分けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「未来をひらく微生物」の文頭にきている指示語や接続語等に着目して，全体を四つに分けている ・四つに分けた理由を説明する。【知識・技能の活用】(読むこと) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「未来をひらく微生物」を，理由をあげながら，四つに分けることができる。 【説明】
3	導入を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・第一のまとめ(導入)から，微生物の働きを読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・微生物とは何かや，その働きについて説明する。 【知識・技能の習得】(読むこと) 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードや指示語，接続語等に注意しながら，内容を読み取る。 【要約】
4	本文を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・第二のまとめ(本文)から，二つの具体的な試みのうちの 	<ul style="list-style-type: none"> ・生分解性プラスチックは，従来のプラスチックの欠点をどう補っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードや指示語，接続語等に注意しながら，内容

		一つ「環境問題を起こさない製品を作る試み」について読み取ることができる。	のか説明する。 【知識・技能の習得】（読むこと）	を読み取る。 【要約】
5	本文を読む。	・第三のまとめ（本文）から、試みの二つめ「微生物による環境復元の試み」について、読み取ることができる。	・微生物による環境復元の二つの方法を説明する。 ・わかりやすく伝えるための、表現の工夫を指摘する。【知識・技能の習得】（読むこと）	・キーワードや指示語、接続語等に注意しながら、内容を読み取る。 【要約】
6	まとめを読み、文章全体の構成を確認する。	・第四のまとめ（まとめ）を読み、結論をまとめることができる。	・筆者の考えを指摘する。 ・文章全体の構成を、理由付けて説明する。 【知識・技能の活用】（読むこと）	・筆者の考えを指摘する。 ・「未来をひらく微生物」を、理由をあげながら適切に分ける。【説明】

5 本時の指導

(1) 本時の目標

文章全体の構成を考えながら四つにわけ、理由を述べることができる。

【知識・技能の活用】（読むこと）

(2) 評価規準及び具体的評価規準

評価規準	具体的評価規準		「努力を要する」 生徒への手だて
	A「十分満足できる」	B「概ね満足できる」	
<ul style="list-style-type: none"> 「未来をひらく微生物」の文頭に来ている指示語や接続語等に着目して、導入・本文・まとめの四つに分ける。 四つの分け方を説明する。 	<p>「未来をひらく微生物」の、各段落の指示語や接続語に着目し、又、キーワードも意識しながら四つに分けることができる。</p> <p>根拠をあげながら、四つの分け方をわかりやすく説明できる。</p>	<p>「未来をひらく微生物」の、各段落の指示語や接続語等に着目しながら、四つに分けることができる。</p> <p>根拠をあげながら、四つの分け方を説明できる。</p>	指示語や接続語の働きについて復習し、段落の大きなまとまりを掴ませる。

(3) 本時の指導の構想

① 指導の構想

「クジラたちの声」で学習したことをふりかえらせながら、大きなまとまりに分けるとときには、指示語や接続語に着目したことを思いださせる。その上で、本教材の文章全体の構成を掴ませたい。学習シートを用意し、段落番号を書いた付箋紙をはりつける形にすることで、努力を要する生徒達がいくらかでも興味を持って取り組めるようにする。初めは個で取り組ませるが、理由を考えながら分けさせたい。その後、班毎に話し合わせる。分けた理由も発表できるように準備させる。話しあった内容を学級で発表するが、違う分け方ができたときは分けた理由の方を大事にしたい。各班の発表を聞いて、もう一度個にもどして考えさせる。

②言語活動について

一人一人が音読することで、主体的学習者としての意識を持たせたい。

四つに分けた考え方を相手に分かりやすく伝える。又、他の人の発表を聞きながら、自分が分けたものとの共通点や違いを知る。

理由を考えながら分けることで、接続語や指示語の働きを確認する。

(4)展開

段階	過程	学習活動	言語活動(☆) 評価(○) 留意点(●) 資料(◇)
導入 5分	前時の確認	1 前時を想起する。	●文章を読む上で支障にならないよう、新出漢字や語句の意味調べ、段落番号を書き入れているかを確認する。
	課題設定	2 学習課題を確認する。	
		文章全体の構成をつかもう。	
展開 40分	見通しをもつ	3 全文を音読する。	☆正しく読めているか。発声、姿勢などは良いか。
	個人追求	4 文章の構成について確認し、四つのまとまりに分ける時のポイントについて想起する。	☆説明的文章を、大きく四つ(導入・本文二つ・まとめ)に分けることを確認する。
		5 文章を四つのまとまりに分ける。	☆以前の学習で、構成をつかむときにどんな方法を用いたかを、振り返らせる。(一行あき、接続語、指示語、事実と筆者の考え等)
	全体追求	6 どのように分けられるか、班毎に話し合う。	○指示語や接続語、内容等に注意して、四つのまとまりに分けることができたか。
7 全体で話し合い、構成をとらえる。 一 ①～④ 二 ⑤～⑫ 三 ⑬～⑯ 四 ⑰～⑱		☆班毎に話し合うことにより、分け方について各自の考えを深める。 ☆分け方の理由についても、交流させる。	
8 本時の学習についてまとめる。		☆班毎に、四つの分け方と理由を発表させる。 ●一と二の区切りを見つけさせるために、キーワードに着目して内容の転換に気づかせる。 ●着目させたいキーワード 一「微生物の働き」「地球の掃除」 二「環境問題」「環境問題を起こさない製品を作る試み」 三「すでに汚染された環境を微生物の力でもとに戻す試み」 四「環境問題の解決」「掃除の役割を果たす微生物」 ●⑤段落が導入か、本文か考えが分かれることが予想されるので、その時は教師側から補足説明する。	
終末 5分		9 自己評価	自己評価をする。
		10 次時の学習内容を知る。	形式段落毎に読み取った後で、4つの段落の要旨をまとめていくことを伝える。